

入試分析会を受けて

1. 滋賀県立高校入試結果 分析 (株式会社大阪進研より)

- ・ 県内生徒数は 42021 人 (772 人減少) ※県内塾数は増加している
- ・ 倍率については、私学公立ともに大きな変化なし

選抜別倍率

推薦	倍率	特色	倍率	一般	倍率
大津(家庭科学)	2.44	大津(普通)	5.87	大津(普通)	1.60
大津商業(総合 B)	1.75	草津東(普通)	4.65	草津東(学校出願)	1.54

大津校、草津東が人気 → 大津校は生徒の 7 割が女子で、女子に人気。利便性がよい
両校ともに進学指導をあまりしないが、一定の進学率を保つ
生徒満足度の高い学校に人気が集まる傾向がある

- ・ 一般選抜学力検査 (学力検査の平均点)

平成 29 年 国語 52.3 数学 51.0 社会 54.5 理科 38.3 英語 43.7 (5 教科 239.8)

平成 30 年 国語 58.6 数学 40.6 社会 46.2 理科 41.7 英語 42.9 (5 教科 230.0)

※30 年度は例年に比較すると、国語は比較的容易、数学は難易度が高かった

< 京都新聞より >

国語：大問一はミツバチの行動について書かれた文章、大問二は読む力を伸ばすことについて考察した文章が素材。読み取ったことや自分の意見を適切に表現したり、内容を正確に理解したりする力が問われた。

数学：生活の場面で興味を持った事柄について複数の領域に渡る学習内容を関連付けて考察する課題を出題。大問三は扉の移動距離と透明なガラスを通して向こう側が見えている四角形の面積について関数関係を見出す問題だった。

英語：言語の使用場面を想定し、コミュニケーション能力を育成する視点を重視した問題構成。授業で行うスピーチや海外でのホームステイ体験など、生徒の興味や関心に即した幅広い題材を扱っている。大問一は放送による出題。

社会：地理、歴史、公民について研究的な学習場面を想定した題材をもとに、地図やグラフ、統計資料などを取り入れ、多面的・多角的に考察し、表現する力をみた。大問一は天ぷらうどんを題材にグローバル化の視点へと広げる出題。

理科：地球、エネルギー、粒子、生命からの出題。観察、実験を中心に課題意識を持って研究し、考えを記述する力を試した。大問一は岩石の特徴と火成岩のでき方に関する問題で、モデル実験の結果を元に考察する力が問われた。

・卒業後の進学率（平成 29 年 3 月卒業）

大学進学 55.9% 専修学校専門学校 16.9% 就職 17.4%

その他 9.8% 全国平均進学率 54.7%

・全日制の平均倍率 4.18 倍

全体の専願率は 17.4%（前年 16.8%）

志願者数が増えたのは、滋賀短大附属（+71）、減らしたのは近江（-199）

・滋賀県私立高校入試状況

高校名	学科名	専願率 (%)	実質倍率
近江兄弟社	普通科	19.4	1.00
	国際コミュニケーション	100.0	1.11
光泉	普通科	7.5	1.00
滋賀学園	普通科	18.7	1.00
滋賀短大附属	普通科	8.6	1.02
	生活デザイン科	20.3	1.01
彦根総合	総合学科	29.3	1.02
全日制綾羽	普通科	10.5	1.04
	介護福祉科	24.3	0.71
定時制綾羽	普通科	28.9	1.10
	食物調理科	41.0	1.32

・次年度入試変更点

立命館守山：フロンティアサイエンスからフロンティアにコース名変更。グローバルコース新設

2. 31年度 滋賀Vもし案内（新規テスト導入のお知らせ）

第1回：6月2日（日）

会場は未定

第2回：9月1日（日）

会場 近江兄弟社高校、成安造形大学、滋賀短大附属高校の3校予定

第3回：11月3日（祝）

会場 近江高校、近江兄弟社高校、成安造形大学、滋賀短大附属国高校の4校予定

第4回：1月12日（日）

会場 近江高校、近江兄弟社高校、成安造形大学、滋賀短大附属国高校の4校予定

※ 全3回から前4回へ。第1回 6/2 の出題範囲は1、2年生全範囲。テスト使用は昨年度一般の準拠。但し、今年度入試問題の出題傾向を確認し、部分修正を行う予定。